

鹿児島県バレーボール協会
各種別代表者様
競技担当者様

鹿児島県バレーボール協会
競技委員長 内田 格

バレーボール競技再開に向けての共有事項

日頃より、競技会の企画・運営等にご尽力いただき誠にありがとうございます。また、本協会の事業に対してもご理解とご協力をいただき、重ねてお礼申し上げます。

今年度の各種別におけるバレーボールの活動については、感染症拡大防止の観点から年度当初の予定が大幅に変更され様々な事業が中止や延期、開催検討中など対応に苦慮されていると思います。

この度、日本バレーボール協会から発出されました、「バレーボール競技に関わる大会等再開時のガイドライン」（鹿児島県バレーボール協会 HP 掲載済）を参考に、鹿児島県内でも注意すべきことをまとめて今後の大会開催の判断や開催時のガイドラインとして皆様と共有し、県内活動の再開に向け協力して進めていけたらと考えます。

記

1 鹿児島県内の大会等再開時のガイドラインについて

（別紙1）「**鹿児島県内の共有事項**」（JVA 資料より抜粋したもの）

2 今後の大会等の開催について

今後、大会等を実施する場合は、「バレーボール競技に関わる大会等再開時のガイドライン」（JVA 資料）、及び別紙1「鹿児島県内の共有事項」（KVA 競技委員会）を参考にさせていただきたいと思っております。また予定されている大会等を実施する場合は、事前に本協会まで連絡をお願いします。

3 参考資料

体調確認書

※各大会及び各カテゴリーで参考にしてください。

| |
|--|
| 問い合わせ先 鹿児島県バレーボール協会 競技委員会 内田 格 asahitaru@yahoo.co.jp |
|--|

(別紙1)

「鹿児島県内の共有事項」

以下の共有事項は、JVA 資料を参考に作成したものです。

大会等再開に当たっては、鹿児島県や各市町村の規定や指示とともに各カテゴリー別団体（小学校・中体連・高体連・学連・クラブ連 等）から発出される指示とを十分検討し判断してください。また、今後大会を実施する場合は鹿児島県バレーボール協会競技委員会まで連絡をお願いします。

- 1 活動実施の基本的対応については、「新しい生活様式定着までの移行期間」とともに期間ごとに段階的な緩和が示されています。

ステップ①（6/1～19） ステップ②（6/19～7/9） } 移行期間
ステップ③（7/10～31） }
●移行期間終了（8/1～）

- 2 活動再開の基本的な実施判断基準

- ①感染リスクへの対応が整わない場合は中止または延期するなど慎重に対応する。
- ②屋外での大会や講習会、研修会については鹿児島県または各市町村のイベント開催制限の方針に反しなければ、感染防止対策を行い注意しながら実施は可能。
- ③屋内の大会は、※試合用コート1日1面あたり、2チームを超えない範囲での参加に限り、セットごとの換気等の適切な感染防止対策を行い注意しながら実施は可能。
※なお体育館施設が十分に確保できている場合は、3チームまで参加数を増やせる。

- 3 大会、講習会研修会等の開催・実施時における留意点

- ①大会参加等の募集時には、感染防止拡大のために参加者が遵守すべき事項を明確にし、協力を求めること。また、これを遵守できない参加者については、参加取り消しや途中退場などを求めることがあることを周知しておく必要がある。
- ②大会当日の参加受付は、参加者の密になることを防止し、安全に受付業務を行う。
- ③大会参加者への対応。
「1 書類による体調の確認」（提出は初日のみ。以降の体温チェックは各チームで）
特に、大会当日の体温、大会2週間前の状況確認は確実に行う。

参加者全員の氏名と代表者の連絡先は、事後の検査が必要になったときに使用できるように。

「2 マスクの準備を依頼」

④主催者の準備・配慮事項について

○大会会場、備品関係

- ・屋内での競技の場合、密閉空間とならないように十分に換気を行う。遮光暗幕を使用してもよいが、セット間に換気を行うなど、定期的に外気を取り入れる。
- ・試合球はできるだけ複数個準備し、消毒を行って交換しながら使用する。
- ・フラッグ等の備品もこまめに消毒し、審判用の笛は、唾液がついた状態で放置をさける。
- ・屋外のテント使用時も密閉を避ける。
- ・感染対策とともに熱中症対策も並行して行う。

○式典、運営の簡略化

- ・コイントス時のキャプテンと審判のあいさつや試合前後の握手は、当面一礼に変える。
- ・開、閉会式、表彰式等は内容を簡略化したり式典参加者の数を減らす工夫をする。

4 観客の管理について

《観客の入場を認める場合》

- ・マスク着用をできるだけ課す。
- ・出入口付近通路にアルコール等の手指消毒剤を設置する。
- ・観客同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らして間隔を空けるなどの対応（各体育館の規定等と照らし合わせ）をする。
- ・試合前後には観客の一斉移動が起こりやすく、通路等が密になる可能性が高いため、主催者によるコントロールが重要。
- ・感染拡大の状況によっては、入場時の検温などを導入することが望ましい。
- ・応援については、大声での声援を控えることや会話時のマスク着用などを来場者に周知することが必要だが、トラブル回避のためにも各チームに共通の目安を伝えておくことが有効。

※上記対応不可の場合や、体育館の壁際通路など、観戦場所が狭いスペースに限られる場合は、当面観客の入場を不可とする。